

という問いは、自己責任とは何を意味するのかや、私たちが個人の努力や他者との協力関係をどのように考えるべきかなどの重要な論点をも提起しています。したがって、様々な観点から、努力、偶然、成長環境などが社会的な成功や失敗に与える影響を論じつつも、個人の能力とは何を意味しているのか、そしてそれはどのようにして形成されるのかにまで、検討の射程を伸ばしたいと思えます。

このような社会的に重要な論点を論ずる場合は、ややもすると一定の解釈を共有している考え方が色になってしまいがちです。しかしながら、異なる立場や異なる解釈にしっかりと耳を傾け、真摯な議論を行えるのであれば、どのような見解を持っている人でも大歓迎です。

以上のような目論見のもと、少人数の親密な空間で、楽しく、そして知的刺激にあふれた議論を行えるような工夫を担当者としてはしたいと思っていますし、参加する皆さんにも同じような配慮と努力をお願いできれば幸いです。

また精読が一区切りした時には、授業のテーマにかかわる映画やドキュメンタリーを視聴し、議論を深めたいと思います。

わたしたちは競争や能力主義にどのように向き合えばよいのかについて様々な形で関心のある皆さんの積極的な参加を楽しみにしています。

【到達目標】

この授業では、受講生がこれからの大学生活（やその後の社会生活）で必要な以下の基礎的能力を養うことを目的としています。

- 1．【文献読解能力】人文社会科学の基礎的文献を読みこなす能力を身に着けること。
- 2．【対話能力】他者の異論との接点を探りながら議論を進められるようになること。
- 3．【説明能力】自分自身の意見や解釈を明快に提示できる能力と技術を身に着けること。
- 4．【調査能力】ゼミでの主題に関して関連事項を的確に調査できるようになること。

【授業計画と内容】

授業の状況によっては、内容を変更するが、概略として以下のように進めます。

第一回：イントロダクションと参加者による自己紹介など

第二から六回：テキストに関する議論

第七回：関連するDVDの視聴とそれに関する議論や、特別教材を用いた議論

第八から十二回：テキストに関する議論

第十三回：関連するDVDの視聴とそれに関する議論や、特別教材を用いた議論

第十四回：残された論点に関する議論

第十五回：フィードバック

【履修要件】

- 1．WORDなどのワープロ・ソフトを利用して文書が作成できること（もしくは努力中）。
- 2．ネット環境を利用して検索などができること（もしくは努力中）。
- 3．電子機器を用いたコミュニケーションができること（もしくは努力中）。

[成績評価の方法・観点]

ゼミナールへの9回以上の出席（この基準を満たさないと、レポートを提出しても単位認定されません）

討論への積極的参加と、議論の要点と論点をまとめたレジユメの担当（50％）

期末レポート（50％）

なお、とについては、到達目標の達成度に基づき評価します。またレポートの形式や課題に関するより詳しい情報は、授業において明示します。

[教科書]

マイケル・サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か？』（早川書房、2023年）ISBN: 9784150506025（2023年刊行のハヤカワ文庫版を使用します。2021年刊行の単行本ではありませんので、間違えないようにしてください。）

[参考書等]

（参考書）

授業の中で議論の展開に応じて文献を例示します。

（関連URL）

<https://www.youtube.com/watch?v=GmLJtxUHFxA>（「能力主義は正義か？ サンデル教授、東工大「利他プロジェクト」と対話する」（外部リンク、2021年6月公開）この書籍の出版を契機に、著者のサンデル教授との対話がなされ、そのうちのいくつかは動画の形でWeb上にあげられています。これもそのひとつで、私たちの思考を刺激してくれます。）

<https://www.youtube.com/watch?v=iugjCPB3oz4>（「サンデル教授に聞く「能力主義」の問題点。自己責任論の国・日本への処方箋は？【マイケル・サンデル×平野啓一郎特別対談】」（外部リンク、2021年10月公開）上記の動画と同様です。）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は文献の精読と議論が柱ですので、日常から、文献読解能力と対話能力とを鍛えるように心がけてください。

また毎回の授業で用いる素材（書籍の特定部分）については十分に咀嚼して、論点を事前に考えてきてほしいと思います。そして報告を分担する回には、当該書籍のまとめと論点やコメントなどを明確に記載したレジユメを作成してきてください。

[その他（オフィスアワー等）]

「暗記しては吐き出す」ような受験型の勉強から、「思考力を鍛える」ような学習スタイルへの移行が順調になされると、あるいは、「ひとりでがんばる」だけの孤独な勉強ではなく、「まず一人で考えてみて、その結果について他者と議論をしながら、また考える」という共同作業を含む思考様式を身につけると、みなさんの大学生活が、豊かに楽しくなるのではないのでしょうか。このきっかけが、本ゼミナールでの学習や人間関係によって得られることを願っています。所属学部の枠にとらわれずに、積極的に学ぶ気持ちを持つ新入生の参加を期待しています。

また質問や相談は、大歓迎です。会議などで不在の場合が多いので、電子メール（Takezawa@econ.kyoto-u.ac.jp）で事前に予約することをお勧めします。授業の質問、進学相談、また就学上の問題まで、なんでも遠慮なく相談に来てください。わたしで対応できない問題は、該当する大学内の機関や担当者を紹介します。

[主要授業科目（学部・学科名）]